

大学発ベンチャー企業として、実験用キメラマウスの製造と新薬実験に貢献する

2002年に、広島大学のベンチャー企業として設立。人間とほぼ同じ機能の肝臓を持つキメラマウスを製造し、同マウスを使用して医薬品開発の受託試験サービスを提供する。他社でもキメラマウスを扱うなか、ヒト細胞とほぼ同一のマウスを大量生産できるのは、世界でも同社のみである。近年では、肝炎分野に加え全種の新薬候補を対象に、薬の効能や毒性、安全性などの評価・分析を行う。製薬メーカー等にとって不可欠な企業であり、海外市場でも存在感があり競争力の高さを示している。

● 所在地 広島県東広島市鏡山3-4-1
● 電話/FAX 082-431-0016 / 082-431-0017
● URL <https://phoenixbio.co.jp/>
● 代表者 代表取締役社長 島田 卓

● 設立 2002年
● 資本金 2,245百万円
● 従業員数 63人



需要獲得

製薬業界で圧倒的なシェアを持つ米国市場での事業拡大

同社は、事業拡大に向けた取り組みとして、製薬業界で圧倒的な市場を持つ米国で、海外顧客獲得や共同研究先確保を目的とした子会社2社を設立した。北米ではサービス拡大を目的に、カナダで『ヒト肝細胞』を持つキメラマウスを用いた受託試験サービスを提供する会社を買収し子会社化している。更に、キメラマウスの北米での安定的な供給体制を確立すべく、設備投資を行うと同時に、製造上の工程把握や各種トラブル等に対応できる人材を育成し、アフターサービス体制の構築に邁進している。



ヒト肝細胞を持つ『PXB-mouse』

成長を遂げる大学発のバイオベンチャー

同社は、広島大学での研究シーズを土台に、2002年にベンチャー企業として設立された。当時は、日本国内で多くの大学発ベンチャー企業が生まれたものの、成功と言われる事例は少なかった。「生命を科学することで人々の健康増進に貢献する」という企業理念のもと、保有技術の優位性を活かし、開発力を持続的に高めていくことで大きく飛躍し、2016年にはマザーズ市場へ上場を果たしている。その実績から雇用や収益性においても地域経済に大きな貢献をしており、今後、更なる成長が期待される。



大躍進したのちマザーズ市場へ上場

動物愛護が求められる環境にも配慮した研究開発の実施

近年、動物実験に対して動物愛護が求められる環境を鑑み、同社では実験動物倫理委員会を設置し、動物の飼育及び試験時の苦痛軽減への取り組みや、飼育環境の整備を行う。また、動物管理や仕様に関連した評価を実施する国際的な機関『国際実験動物ケア評価認証協会』の認証取得を目指して、飼育環境等の更なる改善のための設備投資を計画している。この認証取得により、同社が手掛けるマウスへの理解が深まり、事業活動の持続的な発展に繋がることが期待されている。



動物愛護に配慮して整備された飼育環境

ものづくり